

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700281		
法人名	医療法人 光佑会		
事業所名	グループホーム じゃんがら		
所在地	平戸市浦の町730番地1		
自己評価作成日	平成21年12月14日	評価結果市町村受理日	平成22年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>協力病院が直ぐ近くであり、休日や夜間の体調不良時でも、連携をとり対応できている。</li> <li>又、理学療法士によるリハビリを、年間を通じて行っており、ご本人や家族の満足度が高い。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は母体が医療機関であるため、医療面が充実しており利用者、家族の安心に繋がっている。災害訓練や緊急時の対応、併設のケアハウスとの連携など母体を中心とした組織の利点を活かしながら、事業所の運営が行われている。また、運営推進会議は報告、意見交換、意見の反映に繋がっており、運営に活かされており、意義ある会議となっていることも本事業所の特徴である。職員が毎日15分行なうミーティングは日々の利用者の状況把握に役立っており、利用者本位の支援が行われている。更に昨年の気づきについて改善計画が作成され、改善されていることはサービスの質の向上へ取り組む姿勢がみえる優れた事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂や職員トイレに掲げ、理念を言葉で表し、気を引き締めて、確認し合っている。	理念を実践するにあたって、「和を大切に」では利用者同士の和を大切に支援している。また、「地域の方々とふれあい」については祭りなどには利用者と職員だけでなく、家族にも呼びかけて一緒に出かけていくことで、地域の人とより多くのふれあいができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や通院介助の時、近隣の人や顔見知りの人に挨拶を交わしたり、併設のケアハウス入居者との関係を深めた交流を行っている。	併設のケアハウスの入居者との交流の機会を多く作っている。ただし、地域の高齢化が進んでいるため、現在は地域とのつきあいはほとんどできない状況である。	事業所は市の中心部にあり、医療機関と隣接しているなどの利点を活かし、併設のケアハウスの入居者だけでなく、高齢化している近隣の人々にも交流を呼びかけ、地域交流の場となることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設見学者等に説明を行っている。要請があれば、今後検討し対応する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設サービスの取り組み状況や結果報告の話し合いを行っている。今後、質の向上に繋げていく。	2か月に1度開催されている。規定のメンバーで、内容はサービス、評価への取り組み状況の報告である。出席者の要望で北部地区民生委員の方々の施設見学や地域イベントの交流の場を提供するなど、運営会議を活かす取り組みに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で疑問点や確認事項等積極的に働きかけを行い、電話やFAXで指導を受けている。	事業所は運営に関する問い合わせや法令改正時の疑問、事故の届出様式の相談など市への連絡を密に行なっている。また、市担当職員も運営推進会議に毎回出席する等、連携に向けて互いに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	光佑会施設全体が、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について職員は正しく理解しており、身体拘束をしないケアに全員で取り組んでいる。また、言葉による拘束についても職員に注意を促しており、職員も理解し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員全体で防止取組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での職員勉強会が行われ、制度を理解している。必要な人には、対応できる体制である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって、出来るだけ2人以上の家族等に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の態度や言葉から不安や意見を聞くようにしている。その内容を家族に伝え、意見、要望として運営に反映させている。	利用者や家族の意見や要望は職員が面会時などに聞き取り、いつでも話しやすい関係をつくるよう努めている。出された意見や要望は職員間で話し合い、検討して素早く対応している。外部の公的機関苦情受付窓口も契約書に明記してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミーティングを15分間行っている。月に1度は、職員会議を行っている。	毎日朝の申し送りと昼に15分間のミーティングをおこなうため、職員が意見や提案を言い易い場づくりがされている。月に一度の職員会議では、意見交換も活発に行なわれ出された意見は管理者が代表に伝え、検討されて運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や主任会議等で職員のストレスや査定報告を受け、実績等の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会が毎月あり、受講参加している。資料はいつでも閲覧ができるように、ファイルに閉じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りは現在行っていないが、近隣の事業所見学を行っている。職員との交流を持ち、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談依頼があった場合、入院先や自宅を訪問してご本人の要望、不安を管理者が伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談後、随時電話連絡を行い、次の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談後、ご本人や家族に施設見学を、出来る限り行っている。その時、要望を伺い施設の特徴を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの性格や生活史を把握し、多くの会話や作業を行う事で支えあう関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちを、家族の方と共に支える事が出来るように、面会時や電話で、近況説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、お茶を出してゆっくりくつろげるように、支援している。又、行き来ができない人へは、電話で対応している。	家族だけでなく親戚、同級生、職場の同僚、隣接の病院へ寄ったついでに近所の人など様々な馴染みの方が面会に訪れ、他の利用者とも会話がはずむ時もある。その他、一ヶ月に1回、馴染みの理容室や美容院へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったり、気の合う人とテーブルを囲んで会話ができるように設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された場合でも入院先を訪問したり、家族の相談時は必要に応じて、対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合った暮らし方に無理がないように支援している。居室内での食事やリハビリ通院等。	職員は常に利用者の希望や意向を聞き取るよう努めている。会話の少ない利用者は、表情やちょっとしたしぐさを見逃さず本人の意向を汲み取り支援するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に在宅ケアマネージャーや担当医師の情報を受けた上で、本人や家族との面談、自宅訪問を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者から夜勤者、夜勤者から日勤者への申し継ぎを詳細に行い、その日の心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を伺い、職員間でカンファレンス、介護計画書を作成している。	利用者に関する情報収集は一週間ごとに行い、利用者、家族の希望も聞き取っている。市から了解を得て、見直しは6ヶ月に一度、短期計画6ヶ月、長期計画1年から1年半としている。また、退院後など状況の変化に応じて作成している。主治医の指示、職員の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別のケア記録を記入し、かつリーダーに報告、申し継ぎノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅酸素等重度の生活支援や介護タクシーでの外出、家族の宿泊受け入れも行っている。		

グループホーム じゃんがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向で、理美容店利用時、介助支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院である北川病院を、利用契約時にその旨の説明を行い、同意を得ている。受診は、必要、希望に応じ、歯科等も通院介助を行っている。	隣接する母体の医療機関を主治医としている。受診後は家族に報告しており、定期受診の結果は面会時に報告している。歯科、眼科はかかりつけ医を継続しており、家族又は職員が通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職配置で、日常の健康管理や医療活用支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携を密にしている。特に入院時にストレスが重くなる為、情報提供を行い、頻繁に面会を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医との話し合いを行い、家族の意向を段階的に伺い確認している。又、ミーティングで情報共有している。	家族には、契約時に重度化、終末期について事業所のできる対応の説明をしている。利用者の状況に沿って主治医、家族、管理者で確認しながら、最期を医療機関で迎えられるよう話し合っている。ただし、重度化の指針、重度化についての職員研修は行われていない。	重度化、終末期にむけた事業所の指針は文書化し家族へ十分な説明とともに渡し、互いに指針を共有して支援することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院が向かい側にあり、即、対応してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のケアハウスと合同避難訓練を、年2回行っている。訓練は、地域の人へも連絡している。	事業所は併設型施設にあるため、単独の避難訓練ではなく、建物全体での合同訓練を年に2回実施している。スプリンクラーは設置している。夜間想定は1年半に一度実施しており、隣接する医療機関の応援も得るなど協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を確認し合っているが、徹底には至っていない。	職員には守秘義務の誓約書を取っている。法人内での会話についても守秘義務があることを周知しているが、職員の対応、言葉遣い、声の大きさについて注意するに留まっている。	職員の対応、言葉遣い、声の大きさが利用者の尊厳、羞恥心への配慮を損ねることを職員間での話し合いや互いに注意することなどの工夫を行い質の高いサービスに繋がることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、自己決定ができるような説明をしたり、選択できるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態により、食材料切りやリハビリ、昼寝等の希望を聞いて、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望により、美容院や理髪店に行けるように支援している。服装も希望を聞いて、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材料の野菜切り、つわむきや筍の皮むき、干し柿作り等楽しみながら行っている。行事食や四季に合わせた食事やおやつを提供している。	月、水、金は配食を利用しており、給食会議では感想、意見から改善してもらうなど利用者の意向を反映させている。事業所で調理する日は利用者の希望を聞き季節の食材で食事を楽しめるよう工夫している。キザ食や体調に合わせて栄養剤などの対応を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立表を作成し、栄養バランスを計算している。個々のマグカップに夜間も白湯を配り習慣に応じた支援をしている。摂取量のチェック表を作成、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけや援助を行っている。夜は、義歯のポリデント洗浄を行っている。		

グループホーム じゃんがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを共有し、昼間はトイレでの排泄介助を行っている。夜間は、希望を聞いてポータブル設置、自立に向けた支援を行っている。	職員は利用者それぞれの排泄をチェック表に記録し、トイレ誘導を行なっている。介護度が進むと自立支援は困難になるが、昼間はオムツをはずしてリハビリパンツや布パンツを支援し、夜間もトイレ誘導を行っている。利用開始から改善された例も多くある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表記載と申し送りノート記載で2重の確認を行っている。飲水の働きかけや繊維の多い食材を取り入れている。又、主治医報告、相談して、便秘薬の処方を受けて与薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人が望まれる湯加減やゆったりとした入浴を、個々に合わせて行っているが、週3回の曜日設定にしている。	月、水、金を入浴日として、一番風呂など利用者の希望に合わせた支援をしている。入浴拒否には時間を変えて声かけするなど工夫している。車椅子入浴も専用の椅子でシャワー浴を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れるように、その人に合わせた照明や寝具調整を支援している。昼間は、なるべくフロアでの生活習慣を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の効能や副作用の一覧表を、個別台帳に綴って確認している。新薬と薬時や臨時薬は、申し送りノートに記載し必ず、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の野菜切り、生け花、リハビリ通院等楽しみの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて、ドライブやリハビリ通院を行っている。家族と相談して、外出支援を行っているが、日常的ではない。	気候のいい時期には建物の周囲を散歩したり、リハビリの帰りに花見ついでに散歩するなど外出を楽しむ支援を行っている。日常の買い物は職員が同行し、墓参り、お寺などは家族の協力を得て行なっている。	



グループホーム じゃんがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つだけで落ち着かれる人もおり、主に電話代や日用品代に使われている。預かっている人には、必要時身のまわり品を買うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時や不安が生じている時、家族等に電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上施設化しているが、季節の花を飾ったり、フローアを広めて明るくゆったりと、くつろげる共同空間を提供できるようになった。	共有空間は明るく広々としており、掃除が行き届いて清潔である。換気がよく気になる臭気もない。温度も適温で、利用者が快適に過ごせるよう支援している。季節感のある飾り付けや花が生けてあり、利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビをみたり利用者同士で会話して、なじみの場所で居眠りされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の「準備して頂く物」になじみの物を持って来てくださると、お願いしている。現在、ソファやテレビ、枕や毛布等持込をされている。	利用開始時に「自分の住まいだと思って何でも持って来て下さい」と伝えており、テレビやテーブル、写真、飾りなど個性のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標示や時計、日めくりカレンダーで混乱を防ぐようにしている。又、手すりや浴槽内に滑り止めマットを使用して、不安なく湯ぶねにつかれるようにしている。		